



# 利根町

令和7年度

広島平和記念式典派遣事業



期 日 : 令和7年8月5日(火)～6日(水)

派遣先 : 広島県広島市

### 「利根町非核平和都市宣言に関する決議」

利根町には、日本人の心の奥底にすりこまれた「ふるさとの原風景」がある。初めて訪れた人は懐かしさを感じずにはいられない。

天の雲を映す水田が、青く鮮やかな一面の田となり、やがて黄金色となって風にさざめく。

先人たちが大切に守り継いできた田園風景と日々の暮らしが調和した、美しくかけがえのないふるさとの姿がここにある。

このすばらしい郷土の中で、平和で安心して暮らせることは利根町民すべての願いである。

このような私たちの願いに反し、未だ核兵器の存在は世界の平和に深刻な脅威を与えている。

世界で唯一の核被爆国である我が国は、多くの尊い生命が奪われた。いかなる理由があろうとも広島・長崎の惨禍を再び繰り返し、すべての人類にもたらしてはならないことは、私たちの不変の決意であり、「非核三原則」を将来にわたり遵守するとともに核兵器の廃絶と世界の恒久平和を強く願わずにはいられない。

利根町、恒久平和の願いを新たにし、「非核平和都市」であることをここに宣言する。

平成 27 年 12 月 14 日

利根町議会

# 目 次

- 1 平和記念式典派遣事業概要（事業報告）・・・・・・・・・・ 1
- 2 令和7年度広島平和記念式典派遣事業内容・・・・・・・・・・ 2
  - ・ 広島平和記念式典派遣事業参加者結団式及び保護者説明会（令和7年7月25日）
  - ・ 広島平和記念式典派遣（令和7年 8月5日）【1日目】
  - ・ 広島平和記念式典派遣（令和7年 8月6日）【2日目】
  - ・ 利根町戦没者追悼式（令和7年 8月8日）【利根町文化センター】
  - ・ 広島平和記念式典参加生徒による全校生徒への報告展示会  
（令和7年11月12日）【利根中学校】
- 3 参加生徒の報告  
参加者感想文及び平和へのメッセージ・・・・・・・・・・ 4
- 4 広島平和記念式典派遣事業写真集・・・・・・・・・・ 10

## 広島平和記念式典派遣事業概要（事業報告）

### （1）目 的

被爆地の広島市へ中学生を派遣し、戦争の現実、被爆の惨状等について知り、学び、考える機会を提供することにより、核兵器の廃絶及び恒久平和の重要性に対する理解を深めることを目的とする。

### 〈広島派遣〉

#### （2）広島平和記念式典派遣実施日

令和7年8月5日（火）～6日（水）

#### （3）派遣先

広島県広島市

#### （4）参加者

利根中学校	3年3名	2年1名	1年2名
教育委員会教育委員	1名		
利根中学校教諭	1名		
教育委員会指導課	2名		

### 〈結団式及び保護者説明会・事前学習〉

#### （5）広島平和記念式典派遣事業参加者結団式及び保護者説明会

令和7年7月25日（金）利根町役場 町長公室

#### （6）事前学習

令和7年7月25日（金）利根町役場 町長公室

### 〈報告会〉

#### （7）広島平和記念式典参加生徒による全校生徒への報告展覧会

令和7年11月12日（水）利根中学校

## 令和7年度 広島平和記念式典派遣事業内容

### ◎広島平和記念式典派遣事業参加者結団式及び保護者説明会

◇令和7年7月25日（金）午後5時30分～ 利根町役場 町長公室

#### ○結団式

- ・あいさつ（教育長）
- ・参加者自己紹介
- ・事業内容説明
- ・派遣団 決意のことば
- ・写真撮影
- ・行程等の説明
- ・参加生徒の心構え

#### ○事前学習

「広島・長崎 原爆の歴史」教育委員会指導課  
（一部順不同）

### ◎広島平和記念式典派遣（1日目）

◇令和7年8月5日（火）

○出発式（布佐駅構内）	6：30
○移動（布佐～広島）	6：57～12：23
○被爆体験者講話	13：30～14：30
○広島平和記念資料館見学 千羽鶴奉納	15：00～17：00
○宿泊先着	17：15

◎広島平和記念式典派遣（２日目）

◇令和７年８月６日（水）

○広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式参加（平和記念公園 8:00～8:50）

- ・開 式
- ・原爆死没者名簿奉納
- ・式 辞
- ・献 花
- ・黙とう・平和の鐘
- ・平和宣言（広島市長）
- ・放 鳩
- ・平和への誓い（こども代表）
- ・あいさつ
- ・ひろしま平和の歌（合唱）
- ・閉 式

○碑めぐり・原爆ドーム見学 9：30～

○移動（広島～布佐） 14：18～19：49

○解散式（布佐駅構内） 19：50

◎広島平和記念式典参加生徒による全校生徒への報告展示会

◇令和７年１１月１２日（水） 利根中学校

## 参加者感想文及び平和へのメッセージ

### 広島に行って感じたこと

利根町立利根中学校 3年

被爆体験者から話を聞いた。

原爆投下の日。この日、3年生と2年生は、学徒動員。

8月6日8時15分頃、原爆が投下され、半径2kmを全壊させる爆音・爆風が広がった。そのあとは、人が生きてるかすらわからない。負傷者が「水をください」と求めると、警防団は、「川の水を飲め」という。また、警防団は、「気違いが横行しています。気を付けてください」という。負傷者の皮膚はただれ落ち、ウジ虫が湧く。話を聞くだけで、おぞましい光景が想像できた。

また、核への対応についても考えさせられた。核保有しているといわれている国は、アメリカ、中国、ロシア、イギリス、フランス、パキスタン、インド、イスラエル、北朝鮮。ロシアなど、核を少なくする国はあるものの、全部なくすということはない。もし、核兵器が使われれば、広島や長崎に落とされたものよりさらに強力となっている。日本は、原子爆弾の被害を受けた唯一の国として、核兵器廃絶や世界恒久平和を掲げている。そして、80年間戦争が起きていない。これからも、核兵器廃絶に向けて、進んでいかななくてはならない。

終戦後、原爆死没者慰霊碑には、「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませんから」という文字が刻まれた。この言葉の重みを、しっかり受け止めたい。



～平和へのメッセージ～

戦争と平和について知り、学び、考える必要がある。

私は、この広島で知ったことを、伝えていくことをがんばっていきたい。

## 平和記念式典に参加して

利根町立利根中学校 3年

8月6日、私は広島の平和記念式典に参加しました。朝早くから多くの人が集まり、総理大臣や平和への誓いを宣言する子供たちが、犠牲者の方々の冥福を祈る時間は、非常に厳かで、平和の大切さが身に染みて伝わってきました。黙祷の瞬間、会場全体が深い静寂に包まれ、戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて実感しました。

式典の後には、原爆ドームを訪れました。破壊されたままの姿を今も残すその建物は、当時の悲惨さを物語っており、圧倒的な存在感でした。言葉では言い表せないような衝撃を受けるその建物は、後世までずっと残しておくべきだと感じました。さらに、平和記念資料館では、被爆者の方やその家族の方のメッセージや遺品、写真や絵などを通じ、原爆がもたらした現実を深く知ることができ、当時の情景が目に見えようでした。

今回の体験を通じて、戦争を繰り返さないために、私たち一人一人が平和について考え、行動する必要があると強く感じました。平和の大切さを肝に銘じ、未来へと伝えていきたいです。



～平和へのメッセージ～

今回私たちは平和について知るため、広島に行きました。原爆の悲惨さに触れ、命の重みと平和の尊さを深く感じました。小さな思いやりや対話を大切に、争いのない未来を築いていきたいです。

## 被爆地に行って

利根町立利根中学校 3年

私は歴史が好きで、興味のあるものについて調べていました。でも、自分は体験をしていないため、文章に書いてあることしか分かりませんでした。特に、原爆については、私が生まれる何十年も前のことで、被爆者の方々の苦しみや悲しみ、被爆地の被害、原爆投下後の生活など私には分からないものでした。しかし、今回、広島に行って、被爆者の方からの講話や資料館の写真を見て、衝撃を受けました。大量の骨、火傷の傷から、蛆が湧く絵、皮膚が溶ける絵など、教科書では絶対に見えないようなものがいっぱいあって、資料館を出るころには疲弊していました。

ケロイドや白血病など原爆によっては後遺症が残る人も多くいたと聞きました。原爆が終わっても、恐怖や不安は残り続け、生き残った人たちも生きていくために食べられるものは何でも食べていたと知り、私は今こうして家族がいて、衣食住がある生活ができることがどれほどの幸福なのだろうと思いました。

1945年に戦争が終わり、日本では今、戦争を知らない人が9割近くを占めています。そんな中で、広島へ行って学んできた私たちが、クラスメイトや家族に今回学んできたこと、感じたことを知ってもらい、後世に伝えていきたいです。



### ～平和へのメッセージ～

現在の日本は、戦争を知らない人が9割近く占めています。広島に行き、見て聞いて、いろいろな学んできたことを、少しでも多くの人に伝えていきたいです。

## 広島を訪れて

利根町立利根中学校 2年

私は2日間の広島平和記念式典派遣事業に参加して、80年前、最初に原爆が落とされた地で、原爆の恐ろしさを学んできました。

初日、最初の学びは被爆体験者の講和でした。この方の家族は原爆投下の前に建物強制疎開の影響で爆心地から約2km離れた場所に引っ越していたため助かりました。原爆が落ちた瞬間の家の様子、外に出て見た景色や苦しむ人たちの様子、思い出すのもつらい地獄のような体験について詳しく話してくださり、原爆の悲惨さを知りました。

原爆の威力は、建物でいうと、爆心地から約1.7km（爆心地が利根中なら、竜ヶ崎南高校や文間保育園、利根町図書館まで）は全焼・全壊、半径2km（爆心地が利根中なら、利根二葉幼稚園まで）はほぼ全壊、半径2～5km（爆心地が利根中なら、利根町役場や布佐駅まで）は半壊。これは、利根町全体が壊滅するほどです。

次に、広島平和記念資料館へ行きました。そこには当時の写真、物や服などの実物、当時何があったか生々しく描かれた絵が展示されていました。被爆体験者の話を聞いたあとに資料館に行き、私はさらに原爆被害の悲惨さを思い知りました。

戦争を題材にした映画やアニメもたくさんあり、私も研修参加が決まって「木の上の軍隊」「火垂るの墓」を見て、戦争の恐ろしさを感じていましたが、現実はずっともっと苦しいものでした。

2日目、初日の学びから被爆したすべての方への思いを胸に、広島平和記念式典に参加しました。式典の後、当時の姿を残した原爆ドームを見学し、具体的な想像が頭に浮かぶようになっていました。

今回の研修を通して、戦争や原爆の悲惨さを知ることができ、今の時代に生きる私たちが当たり前に行っている何気ない日常の幸せを大切に思いました。このような平和学習の機会をいただくことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。



～平和へのメッセージ～

悲劇を繰り返さないためにも、戦争の歴史を学び、伝え続けていきたいです。これからも未来も平和が続くように願っています。

## 絵を通して伝わる思い

利根町立利根中学校 1年

この夏、私は広島平和記念式典に参加しました。そこで、基町高校の生徒が被爆者の話を聞いて描いた絵を見ました。その中で一番印象に残ったのは、人の皮膚がただれ落ちている場面を描いた絵です。その絵を見たとき、原爆がどれほどひどいものだったか強く感じました。

絵からは、ただ悲しいというだけではなく、「戦争は二度と起きてはいけない」という強い思いが伝わってきました。絵を通して、被爆者の方々が伝えようとしたことの重さを、私も受け止めることができたように思います。

今回の体験を通して、平和はとても大切で、当たり前ではないのだと気付きました。この気持ちを忘れずに、まずは家族や友達など身近な人に伝えていきたいです。そして、未来に平和をつなぐために、自分にできることを少しずつやっていきたいです。



### ～平和へのメッセージ～

平和はずっとあるもののように思えるけれど、本当は当たり前じゃなく、とても大切なものだとして広島で学びました。このことを、身近な友達にも伝えたいです。そして、私たち一人ひとりが原爆のことをもっと知って考えることが大切だと思います。これからも平和を大事にして、一緒に守っていきたいです。

## 戦争と原爆がもたらすもの

利根町立利根中学校 1年

私は、今まで戦争は自分の生活とはかけ離れたものだと思っていました。しかし、今回の平和記念式典派遣事業に参加させていただいたことで、決して無関係ではないものとして捉えるようになりました。

大きな衝撃とともに特に印象に残っているのは、資料館で見た多くの写真です。全身大火傷を負い、人間の頭なのかどうなのかわからない写真。皮膚が溶けて体の原型を留めていない写真。背中一面ケロイドだらけになっている写真。幼い子が描いたような絵から伝わってくる恐怖。そして、一番ショックを受けたのは、落ちた自分の目玉を拾う絵。資料館を出た後は、まるで自分が戦争を体験したような心の重さがありました。資料館の外の平和な光景と、資料館の中で見た光景のギャップの大きさに、心の整理が追いつきませんでした。しかし、現実起きたこととして、しっかり受け止めなければなりません。さらに、被爆された方に当時の状況を聞くことができました。負傷し、近くにあった山から足を使わずに手で歩いて下山する人。皮膚が溶けている人。途中で倒れていく人。それを踏みつけて歩く人。死体で埋め尽くされた川。それらを聞いて言葉を失いました。他にも、食事は1日1～2食、かぼちゃの煮つけだけで、お腹いっぱいになる日がほとんどない。父親の腕に蛆虫が湧いても、薬がないためピンセットでとるしか方法がない。たくさん話を聞きました。どの話を聞いても、今の日本や自分の生活からは想像しがたいことばかりでした。食事が当たり前のように出てくる、病院にも簡単に行ける、このようなありがたみを改めて実感しました。そして、ここ日本にも、戦争でたくさんの命や穏やかな生活が犠牲になった過去があることを決して忘れてはいけません。戦後80年となる今年、日本は戦争を繰り返すことなく、平和を維持しています。しかし、ロシアやウクライナ、パレスチナやイスラエルなどの国や地域では、まだ内戦を含む戦争が続いています。同じ地球に住む人たちの生命が脅かされているのです。世界から戦争をなくすために、再び原爆の被害にあう国が出ないように、唯一の被爆国に住む私たち日本人は、世界に向けて強いメッセージを発信する役割があり、そのための強いエネルギーをもっているはずで。この度、派遣事業に参加させていただき、貴重な機会に携われたことに感謝申し上げます。

～平和へのメッセージ～

**「怖い」戦争のことを知れば知るほど感じた恐怖。何の罪もない人の命を脅かし、幸せな生活や大事な命を奪う。戦争は人がやることとしては異常なこと。それを肌で感じるためには、戦争について「知る」ことが大事。私と同じ世代の人たちにも、知ってほしい。私自身、今抱えている「恐怖心」を忘れてはならない。今回の記憶を風化させてはならない。学び続け、次世代に語り継いでいく。**

# 広島平和記念式典派遣事業写真集





#### ◎編集後記

平和とは一体何なのか。そのことを考えながら過ごした2日間。

式典での静謐な空気、原爆ドームの無言の訴え、そして、被爆者の方々の切実なメッセージの一つ一つが、私たちの胸に強く響いています。特に、「核兵器は絶対になくさなくてはならない」という強い思いは、世代を超えて私たちが継承すべき重い責任だと感じました。原爆が落とされ、来るはずだった明日を迎えることができなかった人々、今まさに戦争や紛争で日々を怯えながら過ごす人々。そんな人々がいなくなるように、世界で唯一の原爆による被爆国である私たちには、恒久平和を世界に訴える上で重要な役割を担っています。通算6度目となる利根町の広島平和記念式典派遣事業に参加した生徒の皆さんが、今回の体験を通して平和の尊さを世界へ広め伝えていくことを切に願っています。

最後に、今回参加していただいた利根中学校の生徒の皆さんと保護者の方々、教育委員会、学校関係者の方々、また、広島市の関係者の皆様のご協力に感謝し、広島平和記念式典派遣事業報告書が発行できたことにお礼を申し上げ、結びとさせていただきます。

### 令和7年度 広島平和記念式典派遣事業

編集 : 利根町教育委員会 指導課  
茨城県北相馬郡利根町布川 841 番地 1  
TEL 0297-68-2211 FAX 0297-68-7989

協力 : 利根町立利根中学校  
発行 : 令和7年11月